副読本完成
●小学校３・４年生　授業で活用

多良間村教育委員会(教育長　池城三千雄)、は、平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業で、地域学習の為の副読本を作成した。

事業内容は、地域学校教育において、児童生徒に対応した教育プログラムを充実し、生涯学習機会の提供などの学べる環境づくりを図るため副読本を作成し、子どもから大人まで地域のことを学べる資料として活用する為に作成を行った。

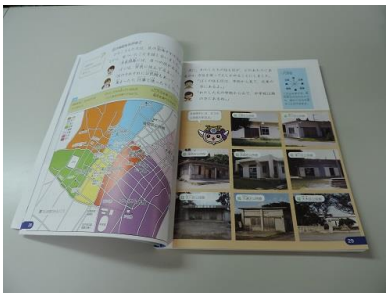
監修に池城三千雄教育長、小学校の先生(平良吉嗣教頭・下地林教諭、池間学教諭)方、宮城一春氏を編集員に迎え、教育委員会の桃原薫が担当し完成に至った。

副読本の内容は、主に小学3・4年生の社会科の地域学習の授業において活用できるもので、沖縄県内、多良間村の文化、産業、伝統行事等身近な様子を、グラフ・図・写真・資料を使い解りやすく、楽しく学習できる内容と、多良間村をより深く感じ、国指定重要無形文化財の八月踊りの紹介やその他の年中行事、さらに、独自のページ「もっと知りたい多良間島」と題したページでは、島の歴史を加味した多良間島を紹介した。

作成数は、７５０冊で、小学生だけでなく、公共施設や各区の区長・班長さんの協力で村内全戸にも配布した。今後、岩手県宮古市の交流事業でも配布予定である。

小学3・4年生の社会科は地域学習といわれ、主な学習対象が身近な地域となっている。

教科書では、日本全国の特定地域を取り上げ紹介されているが、本村は、教科書に掲載されている身近な環境とは異なる点が多く見られる為、身近な教材として捉える教材が必要である。

多良間村の歴史、文化、産業を取り上げ学ぶ教材・副読本を作成することは、子ども達が郷土を知り、誇りと愛情を持てる人材育成に繋がる。

また、子どもから大人まで地域の事を学ぶ資料として活用いただき、子ども達の学びの支援につながることを期待している。